

目指す学校像	きれいな学校 輝く笑顔
--------	-------------

重点目標	1 ICTの活用による、主体的な学びと個別最適な学びの充実、基礎学力向上 2 安心・安全な学校であるための教育支援・教育相談体制と「自分たちで自分たちの生活をよくする」ための生徒の活動の充実 3 コミュニティ・スクールとしての成長に向けた学校・家庭・地域の連携 4 一人ひとりが力を発揮できる学校をつくるための教職員研修と業務改善の充実
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日令和5年2月20日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	【現状】 ○全体的に落ち着いて授業に取り組んでいる。 ○全国学力・学習状況調査、市学習状況調査の結果が市の平均と比べて低い。 ○学力向上の取組についての学校評価は、生徒が高いのに比べ、保護者のそれは低い。 ○基礎学力向上のための小・中連携「大久保学園」の取組を精査し実施している。 【課題】 ○主体的な学びのためのICTの活用について、組織的に研修に取り組み、個人差をなくす必要がある。 ○「個別最適な学び」に学校全体で取り組むための研究を進める必要がある。 ○「大久保学園」の取組の目的を再確認する必要がある。	・生徒の主体的な学びによる学力向上 ・個別最適な学びの充実	①主体的・対話的で深い学びの道具としてのICTの活用に向けて、ICT・学習担当による定期的な部会を中心に研究を進め、校内研修を実施する。 ②教職員が、主体的な学びのためのICT活用について、教科の特質に応じた授業の研究を行い、11月までに、互いの授業を参観しあう。	①「主体的・対話的で深い学び」のツールとしてICTを活用した研究(公開)授業を、すべての教職員が、学期に一度以上実施し協議できたか。 ②個々に設定した目標について、すべての教員が目標達成を実感することができたか。	①すべての教職員が公開授業を行うことができた。授業を参観した教員同士で気づいた点等を交流し、校内研修の実践結果を共有することができた。一連の記録を紀要としてまとめることができた。 ②個々に設定した目標について、すべての教職員が目標達成を実感することができた。	A	ICTを活用について、校内研修体制を整え、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」のためのツールとして活用することについても定着してきた。次年度は、大幅な職員の入替が予想されるため、校内研修体制を維持するとともに、「互いに授業を見合うこと」を日常化するための取組を継続して行う。	
			①「スタディサプリ」以外の個別最適な学びのための取組を研究・実施する。 ②「学習室」(Sola る一む)の効果的な利用に向けた整備を行う。	①学校評価「基礎的・基本的な学力が身についていますか。また、家庭学習習慣は身についていますか」が、生徒・保護者ともに昨年度より向上したか。 ②学期ごとに「学習室」(Sola る一む)の計画を見直し、改善することができたか。	①学校評価の該当項目について、生徒が昨年度から11ポイント増加し89%であったのに対し、保護者のそれは、7ポイント減少し、66%であった。 ②持続可能な形での「学習室」(Sola る一む)の運営体制を整えることができた。	B	保護者の回答が大幅に低下しているのは、第1学年の回答が他学年に比べ極端に低いためであるが、保護者の3人に1人が基礎学力または家庭学習の習慣の定着に問題があると感じていることは、大きな問題提起ととらえるべきである。次年度は、「個別最適な学び」の充実に向けた学校の取組について、保護者に丁寧に説明し理解を得ることで、家庭と学校が協力して問題の解決に当たる。	
			・小・中連携「大久保学園」の取組の充実	・関係小学校との共通理解のもと、基礎学力向上の取組を見直し、実施する。	・基礎学力向上のため研修を3校合同で実施し、具体的な取組を実施できたか。	毎学期、合同研修会を実施し、具体的な目標設定と取組、来年度に向けた振り返り等を実施することができた。	B	
2	【現状】 ○学校評価「毎日喜んで学校に通っていますか」の質問に肯定的な回答をした割合で保護者が向上したのに対して、生徒は低下した。 ○昨年度の登下校の大きな交通事故はゼロ、緊急搬送はゼロ、アレルギー緊急対応はゼロだった。 【課題】 ○生徒の学校行事の満足感が高いが、生徒が「喜んで学校に通っている」と感じている生徒の割合は、多いとは言えない。 ○不登校生徒について、フリースクールも含めた外部機関との直接的な情報共有、他機関ともつながりの薄い生徒についての対応を強化する必要がある。 ○経験年数の浅い教職員が増えていることから、生徒のきめ細やかな実態把握や教職員のさらなる危機管理能力の育成が必要である。	・「自分たちで自分たちの生活をよりよくする」ための生徒の活動の充実 ・生徒指導・教育相談の充実 ・危機管理能力を高める教職員研修の充実	①生徒主体の学校行事(体育祭・合唱祭)を実施する。 ②「自分たちで自分たちの生活をよりよくする」という視点に基づいた「生活のきまり」「タブレット使用ルール」見直しの取組、学級活動における話し合い活動の充実を図る。	・生徒の学校評価「毎日喜んで学校に通っていますか。」の評価が昨年度よりも向上したか。保護者については、肯定的な回答の割合を維持できたか。	生徒の学校評価の該当項目の評価は88%で昨年度より6ポイント向上した。保護者については、83%で6ポイント減少した。	B	学校行事への評価は保護者生徒ともに非常に高い。自治的活動についても、生徒会本部を中心に取り組んでいる。次年度は、生徒がより充実した学校生活を実感できることを目指し、学校生活の基本である授業での「個別最適な学びの充実」に学校全体で取り組む。	
			①スクールダッシュボードを活用して、生徒の変化を日々見取り、「心と生活のアンケート」「いじめアンケート」の確実な実施と、その後の対応を全職員で適切に行う。 ②学習室(Sola る一む)の活用による学習機会の保障、校内教育相談体制の更なる充実、関係機関との連携に努める。	・「心と生活のアンケート」の要面談者数がどの学年でも3学期が、最少となったか。 ・いじめ加害・被害となった生徒が、加害・被害によらず、再度いじめに関わる事がなかったか。	・「心と生活のアンケート」の要面談者数がどの学年でも3学期が、最少となった。 ・いじめ加害・被害となった生徒のうち1名が、再度いじめに関わる事となった。	B	「心と生活のアンケート」や「いじめアンケート」の実施とその後の確実な対応を引き続き徹底するとともに、不登校生徒については、フリースクールも含めた外部機関との直接的な情報共有、他機関ともつながりの薄い生徒についての対応を強化する。	
			①登下校時の安全指導、アレルギー対応、体罰暴言等不適切な指導の根絶のための研修を確実に実施する。 ②毎学期はじめの自転車安全点検や毎日のアレルギー対応を確実に実施する。	・登下校時の交通事故ゼロ、アレルギー緊急対応ゼロ、学校活動中の緊急搬送ゼロ、「希望あふれる学校づくり」相談票提出ゼロとなったか。	登下校時の交通事故ゼロ、アレルギー緊急対応ゼロ、学校活動中の緊急搬送ゼロ、「希望あふれる学校づくり」相談票提出ゼロを継続している。	B	教職員の危機管理能力は比較的高い状態を維持できているが、経験年数の浅い教職員が増えていることから、さらに、教職員への日常的な啓発や研修実施時期を改善するなどの取組を行う。	
3	【現状】 ○昨年度、学校運営協議会で、目指す生徒像の実現に向けた取組を行うことができた。 【課題】 ○「大久保神社社叢クリーン活動」の実施方法を整えることが必要である。 ○校内だけでなく、校外も含めより広く他者と協働することが求められていることを踏まえ、地域の活動への参加の呼びかけを強化する必要がある。	・「地域に開かれた大久保中」の取組の積極的な発信	①「大久保神社社叢クリーン活動」への生徒の自主的な参加を促すための新たな取組を実施する。 ②コミュニティ・スクールとしての取組を発信する。 ③学校ホームページの更新頻度を上げ、学校の取組を発信する。	①「大久保神社社叢クリーン活動」への生徒の参加が、前年度の27名より増加したか。 ②「学校運営協議会だより」を、年間3回発行することができたか。 ③ホームページの学校だよりの翌月掲載を確実に進行。生徒の活動や保護者向けの啓発内容を掲載することができたか。	①地域の催しへの生徒の参加は、「大久保神社社叢クリーン活動」単独で昨年度のほぼ2倍となった②年間3回の「学校運営協議会だより」を発行することができた。 ③学校だよりだけでなく、学年だよりの生徒の活動や保護者向けの啓発内容を掲載することができた。	A	「大久保神社社叢クリーン活動」に当たっては、自治会との連携が必須であるが、昨年度と今年度に円滑に実施することができた要因として、学校運営協議会の委員の方の自治会であったことが挙げられる。次年度以降、他自治会とも連携できるよう、育成会の打ち合わせ等を利用して関係作りに取り組む。	
4	【現状】 ○市内の他校の業務改善の取組などを参考に、業務改善の取組を行っている。 【課題】 ○ベテラン職員に大きな負荷がかかっている現状を改善するため、学年副主任などの「二番手」の育成を積極的に行う。	・業務改善の実施	①教職員が、業務改善の目標を設定し、学期に一度、達成状況を振り返る。 ②学期に一度、学年主任、学年副主任、管理職との打ち合わせの時間を設け、学年や分掌の仕事の確認や振り返りを行う。	①個々に設定した目標について、すべての教員が目標達成を実感することができたか。 ②学期に一度の打ち合わせを行うことができたか。	①業務改善の目標について、全員が意識して取り組むことができた。職員のスプレッドシートの結果は、昨年度より大幅に改善された。 ②学期に一度の打ち合わせは行うことができなかった。	B	教務主任、学年主任などのベテラン職員への負荷は依然として大きいことが課題である。今年度、学年副主任などの「二番手」の育成を積極的に行うことができなかったため、次年度、学期に一度の打ち合わせを確実に実施する。	

